

青森県立弘前実業高等学校

住 所 弘前市中野三丁目六の一

生徒数 男子四七八名 女子七一九名

部員数 男子十三名

顧問 西沢 昭栄

本校は、岩木山を背景に、自然環境も良く、弘前のやや、中心地に位置づけられている。市の近郊は、津軽平野一帯の田園と、りんご栽培の基幹産業を主体に、比較的中核の農村地帯であり、学園都市としても名高い。人口約十七万の近代化都市計画により活気ある市として、躍進している。

本学園も創立七十三年の歴史を刻み上げているなかで、先人の創設されたクラブ活動も、名声は高く、その積み重ねてきた伝統を大切に、生徒達は日々、懸命に練習に励んでいる。何事も前向きな積み重ねが大切である。

県連盟の空手道部も、今年に創設二十周年の歴史をもって現在に至っているけれども、益々飛躍されてゆくご尽力には、唯感銘するのみであり、非常に意義深く思う。

さて、本校のクラブ活動も、二年前から、文化部門と運動クラブが一体となり、必修クラブと連動しながら、各々のクラブの学習基本のあり方や、基礎理念の理解を深めさせている。

各種のクラブ員は、目標を立案し、それぞれの発表会や、展示会、及び大会に、進んで参加し、その成果を上げている。

現在空手道部は、数名の希望者によって構成されているが、各々

の学校祭では、形等を全生徒に披露したり、又大会に参加、いろいろと好評をえている。又、クラブ員の先輩の生徒達も、学校のクラブ活動で学んだ事を基礎に、その本質を自ら十分發揮し、社会人の自覚と共に、立派に働き続けている。

女の人達は家庭の主婦として、家族生活の基本を守り、現実の社会経済性に対応し、豊かな暮しを主軸として支えている姿は誠に立派なものである。

今クラブ員を振り返ってみる時に、男女部員それぞれ別れての練習、そして女子顧問の先生は、技術指導は出来ないけれども、部員達が懸命に努力してくれるので、その気持は非常に嬉しいと語る一瞬もあつた。

部員の事務処理するだけとは、まさにマネージャー的な役割であるかのようにあらたに思い浮かぶ。

現在の空手道部員は、一、二年十三名、他のクラブ員に比べては選手層が薄く、今回の台風十九号の影響で第三練習場が崩壊され、練習する場所も縮少されている。

幸いに昨年第一体育館と第二体育館の中央部に、スポーツトレーニング室が新築されました。

部活動が盛んなせいか事前に担当の先生に使用申し込みをしても、急に変更することがありうる訳です。

スポーツトレーニング室では週一、二回の練習である。

地域には幸いに、市営の海洋センターでの技術指導の機関や道場もあり、その指導をうけながらの練習である。

部員は最高の夢を持ちながらの自己の調整であるので、その意

欲は、完全に燃え上がる時があるかのように思う。

本校の生徒は比較的運動能力の高い部員が多いので、その教育環境に刺激され、また受ける影響が強く、意欲感覚も極度に高いことから、各種の大会や、発表会等に自分から進んで参加する生徒も多い。

また学習においてもその効果があがっている。

スポーツ精神の育成と共に、人間形成の場として、将来は、かなりの期待が持てるだろう。

